

学生団体いきものずかん

十都祐真（環境人間学部人間形成系 4 回生）

キーワード：環境、子ども、教育、紙芝居

1. 団体説明

いきものずかんは、将来の自然環境を守る担い手を増やしていくために、子どもが、自然環境や環境問題に興味を持ち、また、それらを好きになる機会をつくることを目的として、活動している。自然環境や環境問題は、とても難しいため、子どもでも理解できるように、紙芝居やクイズ、折り紙などを利用して、楽しく学べるように工夫をしている。子どもへの環境教育のほかにも、環境に関するイベントや姫路市の白浜海岸の清掃など、幅広く活動している。

2. 2022 年度の活動

2022 年は、部員が 3、4 回生であり、就職活動に取り組まなければならなかった時期であったため、対外的な活動はあまり取り組むことのできない結果であった。

しかし、卒業生とのオンラインでの交流会や、学内での活動報告会に参加する、などの活動を行い、いきものずかんというコミュニティを守り、続けていくために行動することができた。

卒業生とのオンライン交流会は、「いきものずかんの今後を考える会」と題し、12 月 18 日、1 月 22 日に行った。

1 回目では、自己紹介をした後、団体の活動目的を振り返ることから始め、最後には活動を残すための方法を議論した。そのため、高校生も参加する人と自然の博物館でのイベントに参加することを決定した。2 回目は、イベントの発表で使うポスター制作のため、掲載する内容、レイアウト、文字数など話し合った。

学内の発表会は 1 月 19 日に兵庫県立大学環境人間学部で行われた。5 分ほどの発表時間で、学生に向けて、活動内容の紹介と勧誘を行った。また、その後の自由時間では、学生団体 Change! など、他の団体とのコネクションを作り、事業の引継ぎなど提案した。



図 1 作成したポスター（出典いきものずかん）

3. 活動を通して学んだこと

いきものずかんという団体について、大切な居場所と考え、引退した後も、活動のことを気にかけてくださり、親身になってくれる卒業生がたくさんいた。オンラインでの交流会では、卒業した後は別々の道を進んでいった先輩方が、いきものずかんというきっかけで再び集い、また、現役生とも新たにつながりを持つことができた。

そのことから、学生団体という存在は、人と関わるきっかけとなる居場所であると同時に、人と関わり続けられる居場所でもあるということに気が付いた。

また、活動を行っていく中で、様々な人の意見や考えを吸収し、吟味していくことで今まで見えてこなかった発想が出てくることを学んだ。

4. 今後の展望

新たに部員を確保するべく、SNS を用いた広報活動や、人と自然の博物館やイベント参加などを通して高校生や社会人に、自分たちの取り組みについて知ってもらうことを予定している。

また、社会人サークルとして立ち上げることを視野に入れ、より一層幅広い人脈作りに取り組むことを予定している。